

# 七小校長室便り

開校52年目

国立市立国立第七小学校

校長室便りNo.4

令和6年(2024年)7月19日

## 落ち着いた1学期となりました。心から感謝申し上げます！

本日、一学期の終業式を行い、夏季休業に入りました。

各学年や学級における取組、学校公開や避難訓練等の学校行事など、コロナ禍以前の本来の学校の姿が、年度当初から復活をした一学期でした。

今年度は、じっくりと子供たちと向き合うことのできる、地に足を付けることができる年と位置付けてスタートしましたが、子供たちも新しい学年に進級し、新しい仲間と出会ったり、新しい取組を行ったりする中で、学校生活に慣れ、その子供本来の素の姿を見せてくれているように思います。本校のスクールカウンセラーの志村先生と一学期の振り返りの懇談をした際にも、同じようなことを話しておられ、学校生活のプラス面の様子として共有いたしました。

また、保護者や地域の皆様においても、PTAが新しい体制となり、これまでの取組を改善した第一歩を踏み出されました。更には、七小地域見守り会の10年来に渡る見守り活動を様々な形でお祝いすることもできました。

子供たちの安全と安心を多くの方に支えていただき、見守っていただいている本校は、お陰様をもちまして、この一学期、大きな怪我や事故もなく、健康面でも大きな心配をすることもありませんでした。

国立第七小学校の着実な更なる歩みを進めていく上で、こんな有難いことはないと思っています。これからも、学校と保護者と地域のよりよいコミュニケーションの基に、よりよい国立第七小に発展すべく努力を重ねてまいりたいと思います。

先ずは、一学期を子供たちが無事に終えられたことに対して、心からの御礼を申し上げます。

ありがとうございました。二学期、全ての子供たちと元気に会えるのを楽しみにしております。

## 【校長のつぶやき】

前回のつぶやきは、教員としての第一目を迎える時のことをお伝えしました。今回は、一年目の時のことをつぶやいてみたいと思います。

私が学級担任として受け持ったのは、3年生2組で30数名の学級でした。1組のベテランの男性の先生と学年を組み、初年度が始まりました。

当時、私が着任した学校は、市内でもちょっと有名な学校で、小規模校ではありましたが、学力において市内でトップクラスの学校でした。特に隣接している中学校においては、都立の有名校にたくさんの生徒が合格をするほどの進学校でした。

子供たちも、とても優秀で、基本的な学習内容については、すでによく理解している程でした。各教科のテストも、多くの子供たちが90点以上を常に取り、友達同士で話す内容も、本当に小学生だろうかと思うような内容で、社会時事に関わることや今のコメンテーターがテレビで話すようなことを話していました。

私は、明らかに教員として力不足でしたが、なりたいたと思っていた教員になることができた訳ですし、無理を承知で大学に行かせてくれた両親にも応えることにもなります。教員という夢を実現したことは、本当に嬉しい思いでした。とにかく、毎日、頑張りました。「とにかく、頑張る。」—この言葉がびったりの一年となりました。

当たり前ではありますが、授業力など、何も身に付いていない私ですから、上手くいくはずもありません。また、着任した学校は、本当に力のある先生ばかりで、国語の研究発表会をする学校でもありました。実は、当時ご一緒した先生方は、現在、多くの皆さんが教員養成の大学や教職大学院の先生をされている方が多く、本当にすごい先生ばかりでした。教員一年目にして、貴重な体験だったんだと、今になって思うところです。

そんなこんな1年を過ごして、年度末の3学期の終業式(現在では、修了式)の日を迎え、最後の学級指導の後に1人の男の子が言ったこの言葉。—「次も、先生だったらいいな。」—この1年間の思いが全て報われた、忘れられない教員初年度の終わりです。

教員として、子供たちの成長のために、頑張った一年間のことは、今も私の中での大きな原点となっています。本校の教職員もまた、子供たちのために頑張っていることを誇りに思うとともに、よりよい学校づくりのために、私たち教員としての成長を共に図っていきたいと思います。

この1学期、本当にありがとうございました。